

にありがたく心より感謝を申し上げます。

【想いを受け継ぐ心】

世界遺産集落の保存に関しましては、荻町地区の懸案であった観光車両の流入制限についてご英断いただきしました。また、昨年3月には、荻町駐車場を廃止し公園としての活用についてご理解をいただきました。

村といたしましては、旧荻町駐車場が村民と観光客の交流広場として、荻町地区をはじめ村民にとって、より良い空間整備を進めるために2カ年の継続事業として整備を進めていきます。こうした、荻町集落の整備に関しましては、世界遺産マスタープランを基本とし、保存会をはじめ文化庁、並びに係機関と連携し遺産の価値を高めるために努めてまいります。

文化財保護事業に関しましては、荻町伝建地区保存対策事業を計画的に推進するとともに、伝建地区保存計画の見直しや、未登録の文化財の調査事業などを継続し進めてまいります。また、旧遠山家民俗館にありましては、昭和50年以降屋根の葺き替えが行われていないことから老朽化が進み、屋根及び軸部修理が必

要な時期を迎えております。旧遠山家民俗館はブルーノ・オウト氏が絶賛し高く評価されたことが、世界遺産登録に強く影響した家屋であります。

「旧遠山家住宅保存管理計画」を策定し、平成26年度より2カ年の修理事業を進め、利活用を図りながら貴重な財産として後世に伝えてきたいと考えております。

踊り街道フェスティバル事業に関しましては、国からの全額補助をいただき平成23年度より3カ年継続事業として開催させていただいております。本村の民謡や獅子舞など貴重な伝統文化を後世に伝えるとともに、全国にアピールすることができるとなると、大きな効果が期待されています。観光客誘致事業に関しましては、観光客の入込は、東日本大震災や景気の低迷の影響により大幅な減少となりましたが、一時的な低迷時期を脱し、徐々に回復傾向にあるものの依然低い状況となっております。近隣自治体と連携して国内外の誘客に向けた観光キャンペーンやイベントへ参加し、村のPRに努めてまいります。また、近年は、台湾をはじめ韓国や中国などのアジア諸国など、英語圏と異なる言語の観光客が増えたことから、情報端末機による音声ガ

イドの活用を推奨するための「おもてなし国際化補助事業」を創設しました。

観光基本計画に關しましては、真の観光立村を目指した村づくりを進めるために、観光基本計画に沿った質の高い観光の実現に向けた事業展開を図ってまいります。

【村を創造する心】

企業誘致活動に關しましては、安定した雇用の場を確保することが村の重要施策の一つであります。

私の目指す企業誘致は、村の弱い第1次産業（農林業）と第2次産業（製造・加工業）、これと比較的強い観光産業を融合した第6次産業の育成による白川郷ブランドづくりを推進することにより、観光市場を広げ、雇用の拡大と観光消費額を向上させることを目指しております。スピード感をもって積極的に推進してまいりますので、村民並びに係機関の皆様にはご理解と協力をお願いいたします。こうした中に、企業誘致を積極的に推進するため伊藤政策顧問を中心として庁内職員の育成など組織体制の強化を進めてまいります。

企業誘致に關連しまして、若者の村外流出を防ぐことも

にイターン等の新村民の確保を目的とした若者等通勤就職者助成事業の継続並びに、地域ブランド開発支援事業及び、起業支援事業を創設するなど、村内に住所を有する個人または団体や企業に対し、積極的な支援に向けて進めてまいります。

移住・定住対策事業に關しましては、平成24年度まで継続して進めてまいりました「地域振興定住対策特別事業」が一定の効果を果たしたことを受け、新たに「結婚支援事業」や「子育て支援に係る事業」や「老人介護者手当」などの定住支援としてより充実させていただきました。さらに「空き家再生活用事業」や「移住・定住情報発信事業」等を新設させていただきました。これまで手が届かなかった移住並びに定住対策を進めてまいります。

【共に育つ心】

少子化対策に關しましては、平成21年度に「白川村次世代育成支援計画（後期）」を策定し、計画に基づき安心して子どもを産み、育てられる環境づくりを進めています。

が、出生率は依然として低水準を推移しております。この課題は極めて重大であること

から、各課が横断的に検討し、対策を進める体制を立ち上げました。

福祉医療助成事業に關しましては、県単福祉医療事業を主体とし村単事業による児童等医療費助成事業を実施し、助成事業の充実を図っています。また、不妊治療費助成を継続して実施いたします。さらに、一般家庭に比べ、乳幼児がいるご家庭ではオムツによる廃棄量が多ことから、村指定ゴミ袋を新たに現物給付いたします。

保育事業に關しましては、「心豊かで、たくましく、自立する子どもを育てるために」を目標に、家庭と連携を密にして保育を行っております。村の子育て支援策として、土曜保育の実施と共に、今年から更に満1歳児の受け入れを行っております。合わせて3子目以降の園児、並びに片親世帯の園児について、継続して保育料並びに給食費の免除を行います。また、小中学校児童生徒をもつ家庭への支援事業として、第三子以降と片親世帯における児童生徒の給食費を継続して免除いたします。

白川郷学園に關しましては、教育委員に対し「白川村に育った子どもたちに、将来、村に帰って来て、一緒に村づ

くりをしてくれる人材を育てて欲しい」と話をしております。現在、「ふるさと学習」「英語学習」「確かな学力」の3本柱を基本として教育プログラムを進めております。また、小学校及び中学校の教諭に對しまして、小中の兼務辞令により、小中学校の専門教諭が複数で各教科を教えることが可能になるなど、教諭が一丸となつて、学園児童生徒一人ひとりにきめ細かな教育ができるようになりまして、この

ような取組を一層充実するために、平成25年度から保育園を教育委員会部局として位置付け、保小中の12年間を通して「白川びとづくり」を展開いたします。この保小中一貫教育の展開により、縦の教育が確立しつつあります。今後は、家庭教育や地域教育を重点施策として位置付けながら、横の教育の充実を進めることにより、縦と横との教育を連動させることで白川びとの育成を図ってまいります。 統合小学校開校に伴い、教員住宅の改修事業並びに中学校体育館耐震化工事に関する計画を進め、旧小学校跡地の利活用に関しましては、旧学校下検討委員会によりご協議をいただきました。旧白川小学校跡地につきましては、ご提案いただいた内容に基づき

平成24年度末までに公園整備が完了する見込みとなっております。また、旧平瀬小学校跡地に関しましては、本年2月に、今後の活用方針に関する提言書の提出をいただき、この内容の実現に向けて進めてまいります。村民が慣れ親しまれた学校跡地が、今後も村民皆様のために生まれ変われることを希望いたします。

【結でつながる心】

村政運営に関しましては、村民皆様の声を聞かせていただき、反映することが重要であると考えております。沢山のご意見やご要望を当初予算編成に反映するために、村長カフェや出前村長カフェをはじめ、村執行と地域の皆様との会や課長職以上を同伴した集落座談会を開催するなど、村民皆様との対話環境の整備を進めております。

この他、村のホームページ再構築を行い、情報を正しくリアルタイムで提供できるように改善を図っております。特にホームページ内には、村が行う事業内容や、それに伴う予算内容に関して、なるべく分かり易く掲載することを心掛けております。更には、村広報誌や村民カレンダー等につきましても、村民の皆様

ご活用いただくよう見直しをかけるなど充実を図っております。

ふるさと納税に関しましては、特に、個人がそれぞれの事情により村を離れなければならなかった「元村民皆様」へのふるさと納税を積極的にお願いし、村を離れても「白川村づくり」に参加している意識を持つていただきながら、ふるさとと繋がる心の醸成にも取り組んでまいります。

行政改革に関しましては、平成15年以降、行政改革を積極的に推進し、職員の削減や行政組織の合理化と共に、効率的な行政運営に努めてまいりました。また職員に対しては、常日頃から「私の右腕となつて働く職員となること」とまた「職員自ら自分の仕事に對して疑問を持ち、常に改善を図ること」さらに「行政の主役は村民であることに意識すること」の3つの意識改革を示し、行動を促すことで大きく変化していくことを期待しております。今後も、行政運営の高度化、多様化、専門化する行政需要に對して、的確に對応するため、職員のスキルアップと意識改革を進めてまいります。

以上、平成25年度の白川村政運営方針及び予算の概要につきましても、所信の一端を申

し述べてまいりました。村を取り巻く環境は大きく変わろうとしております。今後、さらに厳しい状況になるやも知れませんが、単独村として生き残り、小さな村ではありますが大きな変化に對する団結力と機動力が白川村の強みであります。この強みを活かしていけば必ず道が開けていくものと確信しております。未来を担う子どもたちに白川村を引き継ぐために、また、「いつまでも住み続けたい村」の実現に向け、村職員の知恵と行動を基に一丸となつて全力で取り組んでまいりますので、今後も議員各位並びに村民の皆様と共に力強く前進してまいりたいと存じます。

一般質問

平成25年度施政方針について

(大田議員)

Q、平成25年度村政運営基本方針に掲げる7つの方針のもとと全力で村づくりに前進していただきたいと願う。その基本方針について改めて説明いただきたい。

A、基本方針については第六次総合計画に基づいて定めています。「自然と共に生きる

心」については、村の森林を守るため、カシノナガキクイムシの駆除の実施。大白川園地の整備を行い南部地区の活性化を図る。ふるさと認定博士事業を実施し、村の資源の発掘を行う。「郷を尊ぶ心」については、国道156号の改良促進を図り、北陸新幹線を見据え、2次交通を含めた近隣市町村との連携を図る。橋梁の安全確保事業を実施。防災無線をはじめとする消防設備事業の実施と平成26年度の県消防操法大会の準備をする。「誰もが安らげる心」については、まめなカーの利活用を講じる。生活習病予防の実施。在宅介護の支援。透析通院者の負担軽減を実施する。「思いを受け継ぐ心」については、旧荻町駐車場の活用整備。踊り街道フェスティバル事業の有効活用。観光計画に基づく質の高い観光の実現を図る。「村を創造する心」については、企業誘致の促進や、企業への支援。移住対策として空き家対策事業を実施する。「共に育つ心」については、不妊治療助成や乳幼児家庭へのごみ袋支援。旧学校検討委員会の提言を受け、有効活用できる計画を策定する。「結でつながる心」については、村民皆様の声を行政に反映させる。ふるさと

納税の成果を増やす。職員の意識改革を行う。以上が簡潔にまとめた基本方針です。

Q、基本方針の「村を創造する心」に示される企業誘致について、具体的な状況をお聞きしたい。

A、産業振興プロジェクトチームを設立し企業誘致に取り組んでまいりました。鳩谷地区では米粉の加工工場が操業をはじめ、今後、漬物工場、酒造会社、ホテルについて企業誘致を進めるほか、養豚関係2件、あられ工場、食品加工等の企業誘致の話があります。

Q、企業誘致による若者の雇用促進、定住人口の増加を進める中で、家族でイターン・Uターンを考える方への支援についてお聞きしたい。

A、イターンやUターン者に住み良い環境を提供するため、平成25年度から空き家再生活用事業を行います。住宅の改修費や購入費・賃貸料の一部助成や、移住定住を考えている方に対して、改修した空き家を短期貸付し、体験生活をさせていただきながら、白川村の四季・風習を知っていただくなど、様々な施策を考

えていきます。企業誘致による雇用の確保、福祉施策の充実を進め、移住者にも住みやすい村づくりを進めていきます。

高齢者福祉について

(大田議員)

Q、郵便局では郵政民営化前、独居老人安全確保の支援協定を村と結んでいた。現在は廃止されているが独居老人の安全安心確保のため今一度協定を結ぶべきだと考えるが意見をお聞きしたい。

A、民営化前の郵便局では、独居老人や地域の見守りと声かけをしていただき、地域に安心安全のサービスを提供しており影の民生委員としての役割も果たしていました。現在38名の独居老人が地域の方や関係各機関の方に見守られており、緊急通報装置も設置されていますが、一人でも多くの人に目配りをお願いしたいと考えます。村内を毎日巡回し、地域と密着した郵便局と再び協定が結べるのであればありがたいことはあります。今回を機会に、郵便局と前向きに検討していききたいと考えます。

荻町合掌造り集落ライトアップの交通渋滞について

(松井議員)

Q、2月の3連休でのライトアップの際、白川郷インターからせせらぎ公園駐車場間で大渋滞が発生した。せせらぎ公園駐車場及び寺尾駐車場が満車となり渋滞となったが、この渋滞に一般車両や路線バス・長距離トラック等も巻き込まれ大きな支障を与えた。想定外の観光車両と入込客で大きな混乱が生じたが、今後の対応についてお聞きしたい。

A、村としては3連休の渋滞は想定内であり、ライトアップ実行委員会に対して3連休のはじめのライトアップについて自粛したほうが良いのではないかと指導を行っていただきました。普通車が非常に多くなったのも事実であり、何らかの手立てが必要と考えます。冬のイベントでは雪の状況によって駐車場の確保が困難となり、住民生活に支障を来しているのも現実です。今回は長時間滞在する普通車が多かったことから渋滞が発生したとも考えられますが、今後、実行委員会へは、実施日の指導、駐車場がない場合の対応、マイカーの予約制などについて協議が必要であると考えます。駐車場への誘導方

法についても改良を検討していきます。

村の6次産業化の推進計画について

(川田議員)

Q、村では、若者の雇用の場の確保及び定住人口の増加を図る政策として、6次産業化を推進しているが、これを成功させるための職員の育成、組織体制の強化も重要と考える。今後6次産業化を進めるにあたり、農産物等の生産者への理解と協力について、製造加工の誘致についての考え、生産品の販売及び消費拡大につなげる政策についてお聞きしたい。

A、農産物を確保するにあたって、農家と普及センターの連携を図り、播種計画を進め、ほしい時期にほしい農産物が賄える体制づくりを進めたいと考えます。製造加工の誘致については、白川の農産物を使って製造加工を行いたい業者から話があるので、どのようなものを作ることが出来るか話し合いの中で進めていきます。もし村内でも新しい事業を進めたい方がいれば村としても全面的にバックアップをします。支援策として特産品の販売や製造等の施設整備についての助成や地域ブランドづくりに関する開発助成な

どについて考えています。他の商品と差別化を図り、消費拡大につなげていきます。

ガソリンスタンドの過疎地対策について

(川田議員)

Q、全国のガソリンスタンドでは、消防法の改正で40年以上経過する地下タンクについて危険防止装置の設置が義務付けられた。改修には多額な費用がかかるため、過疎地域ではこれを機に廃業する給油所も多い。白川村も例外ではなく、この状況についてどう考えるかお聞きしたい。

A、村内のスタンドも廃業が続き3件となってしまいました。地下タンクの改修について有利な補助事業もなく、廃業される業者が続いたわけですが、村からスタンドが無くなる事態だけは防がなければいけません。村外での給油や低燃費車の増加などの影響もありますが、最悪の事態も想定し第3セクターでの運営も今後検討したいと考えています。いずれにせよ、経済産業省の補助事業で有利なものがないか協議しながら関係者と慎重に検討していきたいと考えます。

ダム耐震性チェックについて

(小坂議員)

Q、全国には提高15m以上のダムが2800存在する。管理体制は様々であるが、国は国管理以外のダムについて耐震性を把握していない。村には7つのダムがあるが、その耐震性について把握しているかお聞きしたい。

A、電力会社のダムの耐震性については、国の震度法によって設計されています。現在、国内ダムの被害はなく安全性が保たれていると考えます。また、地震が起きた時の管理や点検について国の指針があり、大規模地震時には見直し調査を実施することとなっています。これに伴いダム管理者は調査を行っており、安全性が確保されていることを聞いています。ダム防災会議においてもダム管理や調査について安全確保のための協議を行っています。

防災関係について(新合議員) Q、昨年、村民を対象とした防災訓練が行われ多くの方が参加した。防災意識を高めるため、訓練の継続は必要と考えるが、今後の訓練予定についてお聞きしたい。

A、村民約800人が訓練に

参加し防災意識の高揚が図られました。その意識を薄らぐことなく消防団と協議し、毎年あるいは2年に1回、被害想定や地域をしばった訓練を検討します。また、飛騨地域3市1村による防災訓練も検討しており、安心安全な村づくりのために継続的に実施したいと考えます。

Q、ハザードマップの進捗状況についてお聞きしたい。

A、現在ハザードマップの作成を行っており、先般も消防団幹部にハザードマップの説明及び意見聴取を行いました。豪雨や土砂災害の被害想定や避難場所の明記などについて、分かりやすいものになるよう検討し、5月頃までに各家庭へ配布を行います。

Q、文化財防火デーでの旧遠山家の消防訓練の際、設置されている放水銃の水圧が弱かった。初期消火には重要なものであり、その点検についてお聞きしたい。

A、放水銃は毎年、業者による点検を行っています。点検の際に筒先がきり状の状態にくくなっていました。解放

した状態で収納することの確認と職員による点検も行っていましたと考えます。

Q、各地域に消火栓が設置されているが地域住民による訓練も必要であると考えます。その必要性についてお聞きしたい。

A、火災では消火栓による水利の確保が有効であり、村内に204カ所設置されています。各消防団で管理しており、訓練も行われています。女性防火クラブでも扱い方を訓練していますが、高齢者の方などにも扱い方を覚えていただくよう、防災訓練などで実施できないか検討します。

Q、長瀬地区では、熊の出没や道路上への落石が多い。通学者の安全を確保するため集落内へのスクールバス運行を検討いただきたい。

A、熊の対策については、熊鈴の装着徹底についてお願いしており、出没した際は、通報無線による周知と学校への連絡を行い安全対策の徹底をお願いしています。長瀬地区へのバスの進入は、バスが転回する場所がなく、冬場も道

路の勾配が強いためバスの進入が難しいと考えます。道路への落石防止対策については、法面工事を進めており、通学路の安全確保について、今後も学校及び保護者と検討します。

大白川園地施設整備事業について (森崎議員)

Q、大白川園地の整備は、南部地区の活性化や観光客の村内周遊ルートの確立のために必要不可欠な事業と認識している。平成25年度以降の運営管理体制についてお聞きしたい。また、大白川園地へのアクセス道を、いかにして安全な道路にしていくのか。施設整備と同時に考えていくべき問題である。

A、大白川園地の運営管理についてはNPO法人白川郷自然共生フォーラムに委託を考えており、必要な施設整備の他、緊急時の対策マニュアルなどについて協議を行っています。県道白山公園線の安全対策については、土木事務所へ継続的に要望を行い、通行止めなどによる緊急時の避難対応についても県警ヘリや、関係機関と連携を図り協議・検討を行います。

白川村課等設置条例の一部改正する条例について (森崎議員)

Q、白川村の課の体制について、総務、村民、基盤整備、観光振興の4課への移行について賛成であるが、職員の人員不足が考えられる。平成25年度予算では工事発注件数も増加し、今後も公共事業の増加が見込まれる。専門分野である建設係の対応が必要であり、職員の増員が必要でないか。

A、工事については、積極的な予算を組ませていただきました。測量設計や構造計算等についてはコンサルに委託するものが多いですが、現在の職員の中で目的が達成できる適正な人事配置を考えます。今回の機構改革によって、基盤整備課の中で工事の発注・検査業務を行うこととしました。ここ数年技術者の採用や育成ができなかったことを考えると即戦力の採用も必要ではないかとも考えますが、工事の早期発注を進めるため、コンサルを指示できる技術者の育成を進めながら、限られた職員の中で対応したいと考えます。

新入園・入学おめでとう

●平瀬保育園 年少児【2名】

新谷陵一郎 (勇治・円) 田口 冬真 (貴之・さつき)



(敬称略)
(保護者)

●白川保育園 年少児【10名】

和田 彩乃 (幾太郎・美保) 神田 陽葵 (栄治・英美) 脇坂 吏輝 (力・知子)
川田 真綾 (晋也・和枝) 萩田 涼太 (隆男・広美) 堅田 結芽 (瑞穂・亜紀子)
宮部千彩希 (俊輔・めぐみ) 白木 開士 (秀史・朋子) 山本 繁大 (吉志明・愛子)
南 結斗 (昌和・和美)

●白川郷学園白川小学校 1年生【19名】

北原 柁亜 (昭宏・香苗) 鈴木 彩加 (さおり) 田口 心春 (貴之・さつき)
原 流星 (卓也・景子) 山田 泰輔 (俊行・まゆか) 沢田 大和 (康仁・恵)
清水 掠央 (健吾・美由紀) 田中 世羅 (栄作・あゆみ) 福地 優月 (達也・こずい)
梨谷ひなた (雄次郎・知子) 木下 咲和 (則由紀・加那子) 小倉 悠惺 (奈保子)
阿部 小倅 (寛大・香織) 加藤 遼 (春喜・貴子) 小坂 柚輝 (孝二・久代)
打保 凜空 (実・智美) 石岡 千弘 (弘秋・真由美) 新谷 凌也 (雄一郎・純)
山本 絢心 (吉志明・愛子)

●白川郷学園白川中学校 1年生【23名】

橋脇 海斗 (真・豊美) 北原 直人 (昭宏・香苗) 小洞 拓摩 (輝文・久実)
滝 愛斗夢 (愉鶴・典子) 山田 真帆 (俊行・まゆか) 成原 颯馬 (豊・麻紀)
大杉穂乃佳 (多都志・晴美) 下方 祐哉 (沙世) 板谷京志郎 (千華良・瑞紀)
西村 梨緒 (利夫・紫穂) 阿武紗穂里 (悦司・万里子) 沢田 葵 (康仁・恵)
和田 大飛 (典勝・めぐみ) 古屋 輝大 (健司・リカ) 森崎 拓歩 (雅樹・憲代)
板谷 真一 (本一・真理子) 小倉 実夢 (奈保子) 大溝 琴 (長雄)
矢野 晃成 (政幸・智代美) 矢野 礼菜 (政幸・智代美) 坂下 芽唯 (昭仁・晴子)
大野日菜梨 (博司・美津穂) 中森龍太郎 (孝博・奈美)

教職員の異動 (敬称略)

●お世話になりました () は転任先

〈白川小〉

戸村 和夫 (本巢市根尾中) 廣瀬 和子 (退職) 岩見 光洋 (岐阜市長良東小)
堀 夏代 (退職)

〈白川中〉

石原 嘉和 (飛騨教育事務所) 野首 章吾 (高山市国府中) 堀 治夫 (安八郡登龍中)
田川のしのぶ (高山市丹生川小) 櫻井奈菜子 (下呂市宮田小) 肥垣津雅志 (高山市日枝中)

●よろしくお願ひします () は前任地

〈白川小〉

松岡 悟 (高山市中山中) 三島 真紀 (高山市荘川小)

〈白川中〉

石神 淳司 (岐阜市教育事務所) 小森 仁美 (高山市花里小) 打保 実 (飛騨市古川小)
新井 良太 (各務原市稲羽西小) 肥垣津 香 (高山市松倉中)

みんなのスポーツ (敬称略)

活躍した選手の皆さんを紹介します!

フットサル オリベカップU-11
3月2日(土)多治見オリベフットサルパーク
U-11 2位
白川少年サッカークラブ

フットサル リードカップU-10・U-12
3月16日(土)多治見オリベフットサルパーク
U-10 7位 U-12 7位
白川少年サッカークラブ



第17回ふれあい村民ゲートボール大会
3月5日(火) ふれあい体育館
1 位 長生会チーム
(清水良子・坂井奎子・寺口きよ子・大洞森雄・渡邊久子・水木秀子)
2 位 寿会チーム
3 位 役場チーム



ふれあい卓球大会第1回白水カップ
3月20日(水) 旧平瀬小学校体育館
小学生シングルス

- 1 位 坂下 芽唯 (御母衣)
- 2 位 中森龍太郎 (平瀬)
- 3 位 大野日菜梨 (保木脇)

中学生以上女子シングルス

- 1 位 坂下 菜穂 (御母衣)
- 2 位 中森 萌佳 (保木脇)
- 3 位 中森真奈美 (保木脇)

中学生以上男子シングルス

- 1 位 高桑 佑典 (鳩谷)
- 2 位 東屋 大貴 (木谷)
- 3 位 前田 政博 (鳩谷)

白水カップ争奪戦

- 1 位 高桑 佑典 (鳩谷)



☆スキー結果 (6位まで)

第3回岐阜県チルドレンスキー選手権大会
3月2日(土)モンデウス飛騨位山スノーパーク
大回転
K2男子
1 位 山越 貴文 (平瀬)



乗鞍大回転競技大会
3月10日(日) ほおのき平スキー場
大回転
中学生女子
4 位 新谷ひな子 (木谷)
実年男子
5 位 森下 宏記 (木谷)

**第47回平湯温泉大滝山ジュニアアルペン
スキー競技大会**
3月20日(水)

小学2年生
2 位 鈴口 諒真 (荻町)
小学3年生
1 位 大塚 光稀 (長瀬)
小学5年生
3 位 大塚 悠輝 (長瀬)
小学6年生
3 位 和田 大飛 (荻町)

ダイナランドカップ
3月24日(日)ダイナランド
大回転

小学生中学年男子
5 位 西村 龍也 (荻町)
6 位 鈴口 諒真 (荻町)
小学生高学年女子
6 位 西村 梨緒 (荻町)
小学生高学年男子
1 位 新谷 翔也 (木谷)
3 位 和田 大飛 (荻町)
中学生女子
1 位 新谷ひな子 (木谷)
中学生男子
4 位 西村 力也 (荻町)
ゴールドの組
5 位 森下 宏記 (木谷)

診療所 だより

伊左次 悟 先生



白川村での研修受け入れ

昨年度も10名以上の学生研修医を受け入れました。自治医大の後輩のみならず筑波大、群馬大、順天堂大などいろいろな学校から来ました。県の研修会への協力で夏の高校生の実習も恒例になりました。診療所の小さな現場で細々とした研修ですが、それでも通算70名を超えました。研修にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

医師や看護師になる場合、学校を卒業し国家試験に合格して免許を得ても、まだ現場で仕事ができるレベルには全く及びません。むしろ卒業がスタート地点であり、ここから仕事ができるよう修練を開始します。医師は、現在は2年間の共通プログラムで各

科の研修が初期研修として義務付けられました。その後さらに3年の後期研修を経て専門性を身に付けていくのが通常です。田舎の診療所として例外ではなく、私も昨年認定医試験を受けて合格しました。看護師の場合は病院ごとに3年程度の新人研修期間を含め、それ以降も続く修練の課程があります。診療所勤務等はそうして1人前になった人の応用編の仕事であることは今では普通かもしれません。

こうした修練の中で、診療所や地域での研修は卒業前、卒業後も含めて位置づけが大きくなってきています。白川村の研修ではまず挨拶、自己紹介を重視します。次にあたりまえですがコミュニケーションです。地域や住民のまず日常から入っていきます。そうして難しい病気以前に、かぜや高血圧から始まり、例えば高齢者の介護や生活を支える部分など地域の中でのあらゆる医療に関わるニーズを体験し知ってもらいます。知識や技術よりも、姿勢や態度を重視します。そして自己評価をきちんとしてもらい、こちらからも医師のみでなくスタッフ全員で真剣に評価しています。今年度も村民皆さまの研修へのご協力をよろしく願います。